



組織で発生する不正・事故に関する 問題意識について

甘利 康文

組織で働く人間が引き起こす
不正・事故対応WG・世話人

(セコム)

2013 年6月7日

「セキュリティ実現の原点から見た内部要因事故抑制手法」(2012/3)

「はじめに」

組織の内部要因から発生する損失へのセキュリティ対策として「組織のあり方」という観点に着目…



…従業員が引き起こす事故を抑制するフレームワークについて論ずる。

加えて、この考え方に基づいて検討した具体的対策方法について提案する。

「組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG」発足(2012/7)



JNSA PRESS

JNSA ワーキンググループ紹介

組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG

WGリーダー セコム株式会社 甘利 康文

「組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG」は、JNSAのWGの中でも新しい(昨年7月発足)、そして少し変わったWGです。現在は、月に1回くらいのペースで集まり、勉強や、知見の共有を行っている段階です。今回はこのWGについての紹介をさせていただきます。

これまで、多くの組織が、そこで働く人間のルール違反(不正)によって憂を消しています。エンロン、ワー

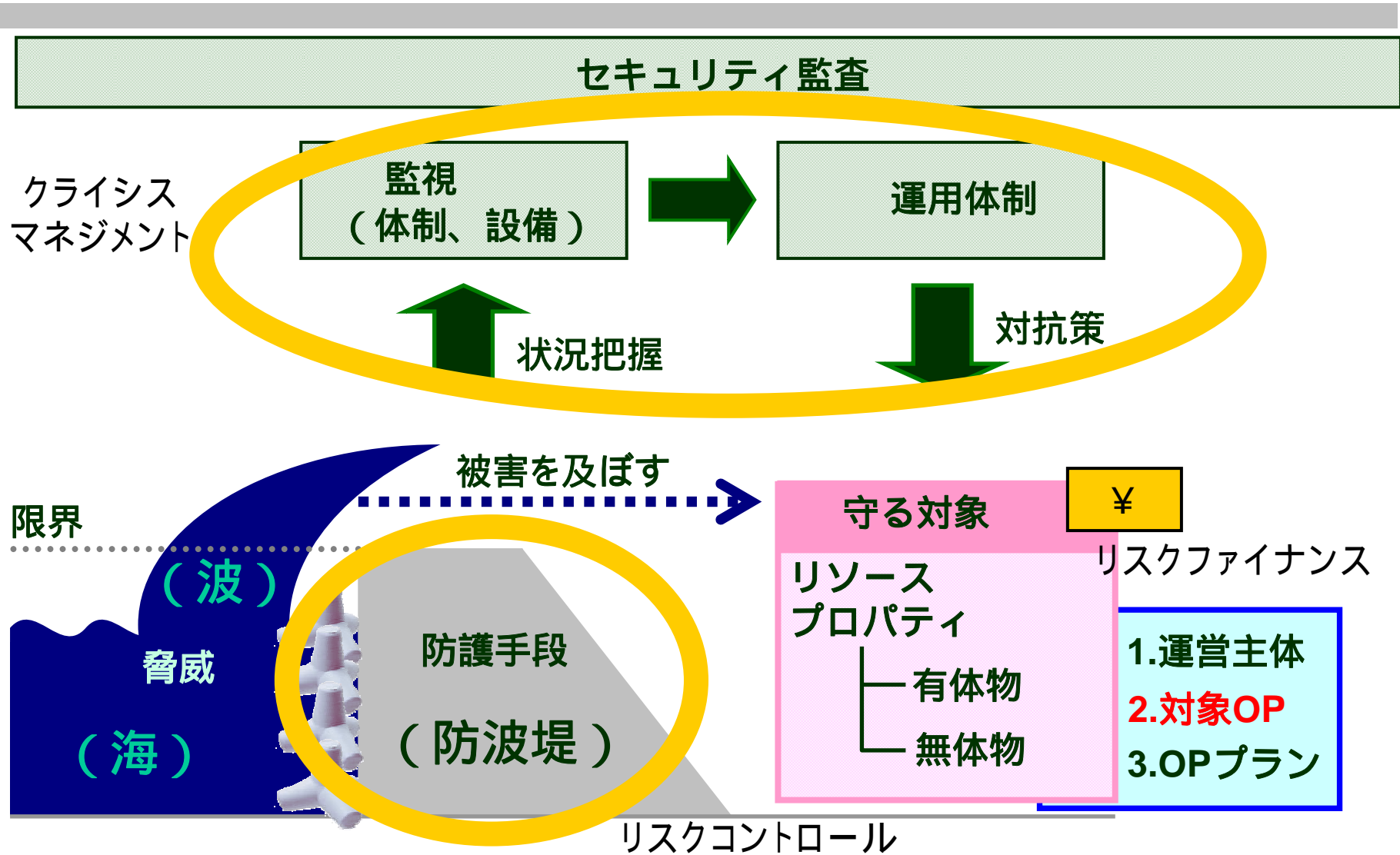
情報セキュリティ分野では、人による情報漏洩が話題になり、多くのベンダーから、技術的にその対策を行うソリューションが提供されています。この大きなトレンドも、もとをたどれば、組織の内部統制の強化が、社会的に求められ始めたことに、その源流の一つがあるのではないかと思います。

人による情報漏洩は重要な事故ですが、組織の内部に要因がある事故はそれだけとは言えません。その

活動目的

組織で働く人間が引き起こす事故、すなわち意図を持った「内部不正」と、意図のない「ヒューマンエラー」を対象として、これらの「内部不正・事故」の防止 / 抑止方法論を具体的にまとめること

セキュリティの基本モデル



最も重要な守るべき対象は、その組織の“オペレーション”

産業界のセキュリティ意識



JASA ([NPO]日本セキュリティ監査協会)

IPA ([独]情報処理推進機構)

JNSA ([NPO]日本ネットワークセキュリティ協会)

JSSM (日本セキュリティ・マネジメント学会)

情報セキュリティ大学院大学

「情報セキュリティ」が主な対象

⋮

安全工学(会)

火災, 爆発, 破壊, 工業中毒, 職業病, 労働障害, 環境破壊などの「産業災害」が対象

セキュリティ

最も重要な守るべき対象は、その組織の「オペレーション(OP)」

組織のOPをまわしているのは「そこで働く人間」

全てのビジネスについて内部窃盗が原因で立ち行かなくなる割合: 30%†

† ミネソタ大学の調査による, Security Management, Sept. 1985

事業所のセキュリティ被害の多くは

- 内部不正 / ヒューマンエラーによって発生している

米國小売業における2008年の調査では

- 商品在庫の被害額の44%は社員犯罪に起因

日本でも小売業の内部犯罪(内引)が多いことが指摘されている

米国のコンピュータの社内不正利用2008年の調査では

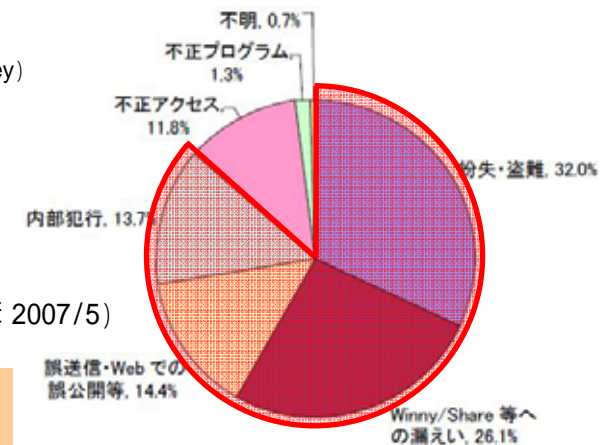
(CSI Computer Crime & Security Survey)

- 企業の44%が社員の不正利用を経験

日本でも情報流出の多くが内部要因

- 情報漏洩事件の約9割は従業員が原因

(「情報漏えいインシデント対応方策に関する調査報告書」 [独]情報処理推進機構 2007/5)



N=153

内部不正/HEの予防/抑制は、
「オペレーションを守る」ための重要テーマ

「表沙汰になりにくい」ため系統的対策が成されてこなかった分野

組織で「働く人間」に関するセキュリティ **JNSA**

組織で「働く人間」による「情報窃取・漏洩」に関する検討
ある程度は検討されている

OPに影響を及ぼす内部不正は情報窃取・漏洩に限らない

使い込み・窃盗
カルテル
不正経理
取引先等との癒着
意図的不作為・隠蔽
組織の私物化(公私混同)
⋮

その他 違法(脱法)行為、
ルール違反

IPAの動きとWG活動

IPA ([独]情報処理推進機構)

「組織における内部不正防止ガイドライン検討委員会」発足(2012/7)

法律専門家(弁護士)、情報セキュリティ専門家、企業セキュリティ部門責任者、(経済産業省)等がメンバー



「内部不正防止ガイドライン」公表(2013/3)

<http://www.ipa.go.jp/security/fy24/reports/insider/index.html>

内部不正対策:

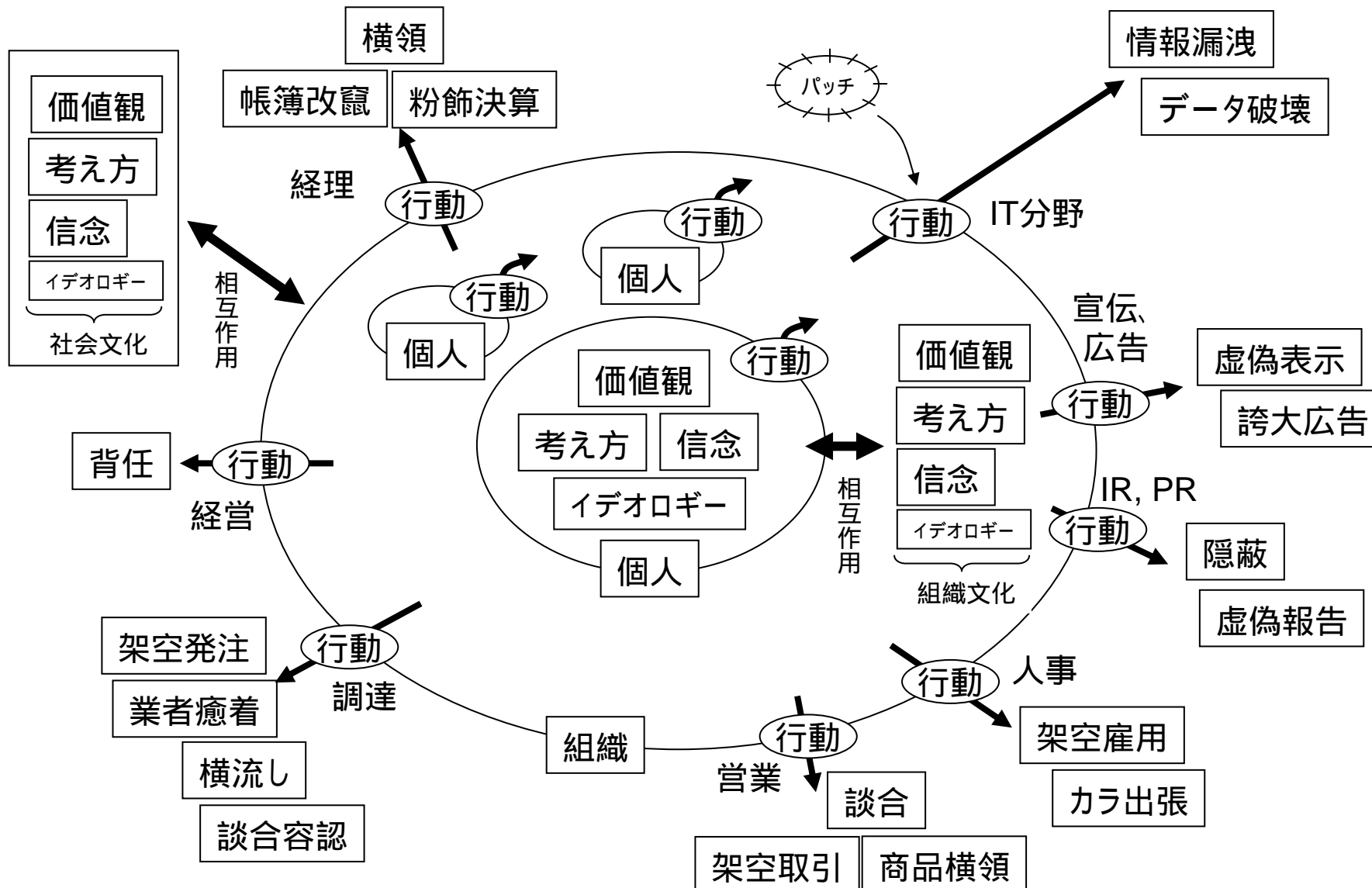
情報システム部門のみならず、経営者が主導し、人事、総務部門等も含めた組織全体で対応する問題

(但し、「内部不正 従業員関係者による意図的情報漏洩」の扱い)

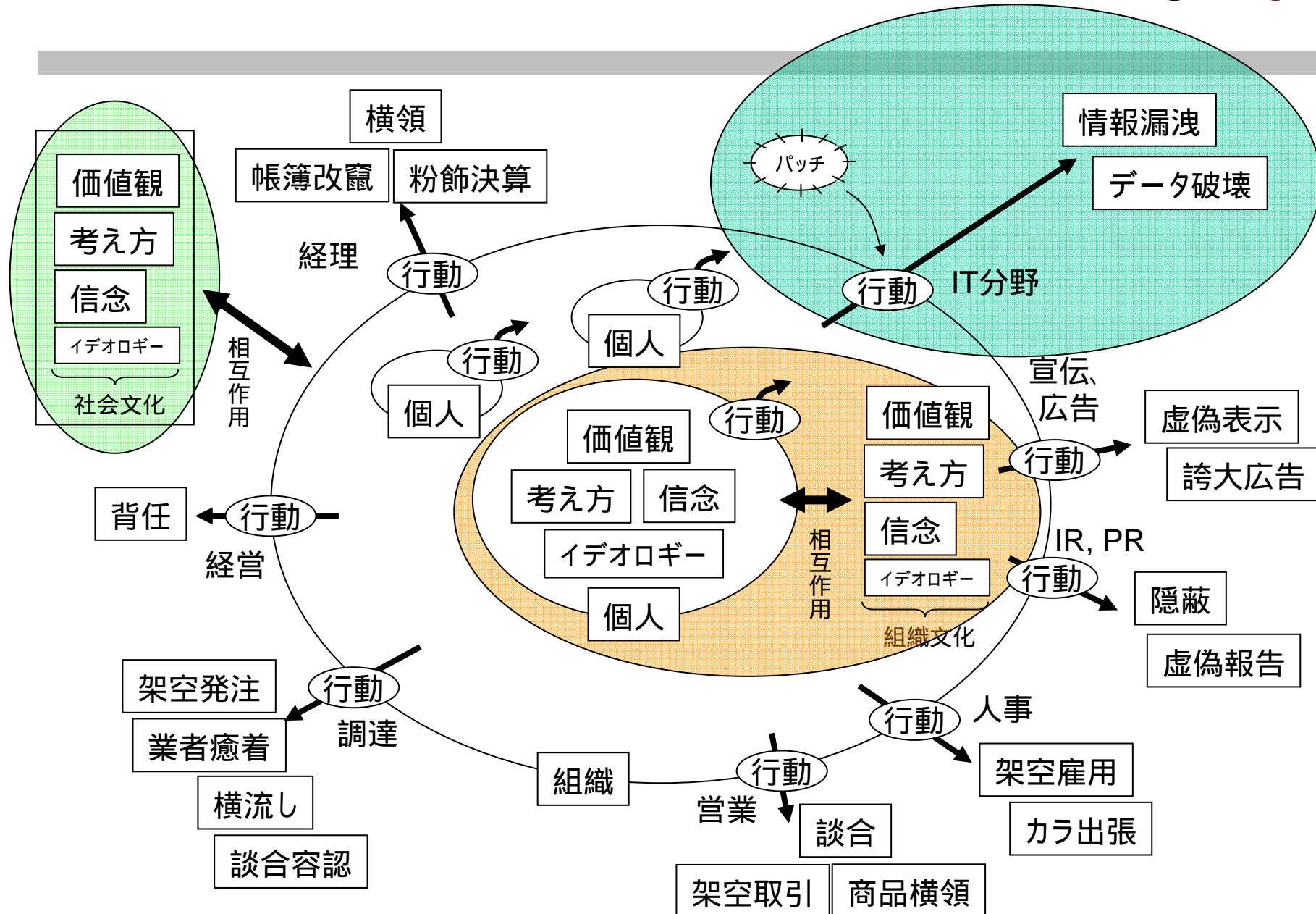
公的機関によるガイドラインゆえの抽象的記述が多い

WG活動のひとつとして、産業界の立場から本ガイドラインの「ソリューションガイド」を作成する予定

不正発生モデル (JNSA内部不正対応WG)



スコープ



WGとしての問題意識と提言

「組織のOP」では、様々な「課題」に直面する。この課題解決は、

{ 制度(体制、社会、ルール)
人の行動の変革(教育、啓発)
技術(システム) } の3つの方向性からアプローチすべき

内部不正対応では、「技術」が重要なのは間違いないが、

「組織のあり方」、「組織で働く人々」に着目した
セキュリティ対策も必要

JNSAにとっての新たなフィールドに・・・



ご清聴ありがとうございました。

Thank you for your attention.

清听谢谢。